

令和5年度 第1回赤磐市総合教育会議議事録

- 1 開会日時 令和5年6月15日(木) 13時00分～14時00分
- 2 会議場所 赤磐市立中央公民館第2会議室
- 3 構成員
市長 友 實 武 則
教育長 坪 井 秀 樹
教育長 大 崎 陽 二
職務代理者
教育委員 山 本 賢 昌
教育委員 平 松 由 香
教育委員 遠 藤 益 恵
- 4 関係者
教育次長 入 矢 五和夫
教育総務課長 西 崎 雅 彦
学校教育課長 森 本 治
- 5 事務局
総合政策部長 倉 本 貴 博
秘書広報課長 小 引 千 賀
秘書広報課 主幹 藤 井 靖 子

○事務局：定刻となりましたので、これより令和5年度第1回赤磐市総合教育会議を開会します。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、市長のごあいさつをお願ひいたします。

○友實市長：はい。失礼いたします。本日は、令和5年度の第1回総合教育会議ということで、皆様方大変お忙しい中、こうしてご出席を賜りましてありがとうございます。第1回ということでございますけれども、本日の議題は非常に赤磐市にとっても重要な案件でございます。特に赤坂地域の3つの小学校をこの先どういうふうな方針で向かっていくか、これを論議したいということで、今日の議題に上げさせていただいております。赤磐市にとっても、赤坂地域にとっても、非常に大きな転換になるかと思ひます。ぜひ慎重なるご審議が私としても必要と思ひますので、こういった諸事情を説明させていただいて、その上で適切に判断をしてこの先に向かっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。私のほうからは、冒頭のあいさつとして以上です。ありがとうございます。

○事務局：それでは以降の協議につきまして、引き続き市長の進行をお願ひいたします。

○友實市長：はい。それでは、お手元の次第に従って進行させていただきます。協議事項1として、赤坂地域の魅力ある学校づくりについて、まずは担当部署から説明をお願いします。

○森本学校教育課長：学校教育課、森本です。私のほうからは、赤坂地域の魅力ある学校づくりについてということで、先日行いましたアンケート調査結果の概要版についてご説明させていただきます。資料の3ページをお開きください。赤坂地域の魅力ある学校づくりに関するアンケート調査結果報告概要版でございますけれども、調査目的としまして、赤坂地域の3小学校、石相、軽部、笹岡の今後を考えるにあたって、地域の多様な実情や意向を明らかにし、今後の魅力ある学校づくりの参考とするため調査を実施いたしました。赤坂地域の全世帯に郵送し、回答いただくという形で行っております。調査期間は令和5年の1月13日金曜日までとしておりました。まず調査結果でございます。回収率は39.1%でございました。問4でございますが、存続・統合についての関心につきましては、「関心がある」とお答えになった方は63.5%、「関心がない」が14.7%、「わからない」が19.6%、未回答が2.2%でございました。続きまして、問5、存続・統合についての考えですが、「3校を存続すべき」9.2%、「3校を1校に統合すべきである」66.6%、「どちらともいえない」23.5% 未回答0.7%でございました。概要版のほうには載せておりませんが、詳細版のほうは学区ごとの存続・統合の考えを聞いております。参考までにお伝えしますと、石相学区「存続」7.9%、「統合」60.4%、軽部学区「存続」8.3%、「統合」75.2%、笹岡学区「存続」14.1%、「統合」65.9%でございました。続きまして、問6で「存続すべきと回答した理由として」でございますけれども、「統合すると学校がなくなる地域ができる」という回答が多くありました。で、「どのような条件があれば統合を考えられるでしょうか」という問いに対して、「通学バスなどさまざまな条件が整備されるのであれば」、「条件が整えば統合を考える」との意見が多く寄せられたというのがこの結果からもお分かりだと思います。また、問7で「統合すべき」と回答した理由として、「学級の人数が多くなり、多様な考えの学習場面が増える」や、「学級数や友達が増え、コミュ

ニケーション力が高まる」との回答が非常に多く見受けられました。児童が増えることで、他の児童の多様な考えに触れる機会が増え、コミュニケーション能力を高めることができる方が多いということがうかがえると思います。簡単ではございますが、以上、赤坂地域の魅力ある学校づくりアンケート調査結果についてご報告させていただきます。

○友實市長：ただいま担当部署から説明がありましたが、何かご意見等がありましたらお願いします。といっても、資料を読み込んでいただいて、意見等を整理する時間も必要かと思いますが、いかがでしょうか。少し考える時間を取りましようか。

○山本委員：アンケート結果は先に知らせてもらっていますので、次に進めていただければ。

○友實市長：次に移ったほうがいいですね。後ほどこのアンケートについても、ご意見があるようであればおっしゃっていただければと思います。それでは、続けて資料のほうを説明させていただきます。

○坪井教育長：教育長、坪井です。それでは、お手元に赤坂地域の魅力ある学校づくりについて、カラーの資料があると思います。教育長からはまずはこのワンペーパーについて説明をさせていただきます。まず、アンケート結果につきましては、先ほど担当が申し上げたとおりです。このアンケート結果及び赤磐市立幼稚園・小学校・中学校教育環境整備審議会最終提言書と赤磐市小中学校規模適正化基本方針、そして、令和5年度現在における将来的な児童数の推移及び令和の日本型学校教育の中に示されている「協働的な学び」の効果的な実現の必要性などを総合的に判断し、赤磐市教育委員会といたしましては、令和8年度4月に、赤坂地域にあります石相小学校、軽部小学校、笹岡小学校の3校を統合する方向で考えております。これまで、3つの小学校においては、地域の実態に合わせた特色ある教育が展開されておりましたが、3つの小学校が統合することにより、「より個別最適な学び」や「より協働的な学び」が実現できるものと考えております。具体的には、子どもたちにとっては通いたい、保護者にとっては通わせたい、地域の方にとっては行ってみたい、教職員にとっては勤めてみたい、そんな小学校を目指します。そして、そのキーワードとなるのが、資料では一番下のところにインクルーシブと書いております。そのキーワードとなるのがインクルーシブです。日本語では、すべてを包み込むなどと訳されておりますけれども、赤坂地域にお住まいの子どもから高齢者の方まで、すべての皆様が日々の成長や学びの成果、幸せなどを実感できるための、拠点施設としたいと考えております。誰一人取り残すことのない学舎（まなびや）こそが、このインクルーシブという考え方でございます。資料には、仮称として、「赤坂小学校」とさせていただきますが、これは決定しているものではございません。仮称赤坂小学校の教育の特色といいますか、魅力は、次の4点を考えております。資料の下をご覧ください。一つ目は、新設される小学校は小中一貫型とし、赤坂中学校と連携した教育課程を編成してまいります。二つ目は、赤坂地域や赤磐の地を愛する子どもを育てていくための地域学習を充実し、赤坂の地や赤磐の魅力を発信し、語れる子どもを育てていきます。三つ目は、石相学区、軽部学区、笹岡学区には、生涯学習の拠点となる公民館の分館がございます。各地域の地域教育力を最大限に継承していくために、学校運営協議会、いわゆるコミュニティスクールを立ち上げます。四つ目は、国が進めておりますインクルーシブ教育システム

の構築でございます。仮称の赤坂小学校は、先進的なインクルーシブ教育を推進していくために、大学から有識者を招聘して、大学生も参画しながらのシステムを新たに構築していこうと考えています。以上4点はまさにもうインクルーシブの概念を、具体で実践できるものとなると思っております。なお、資料にもありますが、令和8年度が、赤坂地域における魅力ある学校づくりのゴールではありません。将来的には小中一貫の義務教育学校、仮称ではありますが、赤坂学園を目指していきたいと考えています。以上、赤磐市教育委員会の課題としての3校統合に向けた考え方を説明させていただきました。最後になりますけど、教育長といたしましては、やっぱり統合に向けて一番不安を感じるのは子どもたちだと思います。赤坂地域の子どもたちに寄り添うことを忘れずに、今やらねばいつできるの思いで、統合の準備を加速させていきたいという考えでございます。なお、この後の統合に向けてのスケジュールを担当課長から説明をさせます。課長お願いします。

○森本学校教育課長：はい。学校教育課、森本です。それでは、資料の6ページをご覧くださいと思います。学校の統合の際のスケジュールでございます。先ほど教育長が申しましたとおり、令和8年度の4月開校予定ということでございますので、その令和8年4月を目標に、ここに示しているようなスケジュールで進めていく予定となっております。本日は6月15日ということで、存続・統合に係る方針決定ということで総合教育会議ということでございます。6月23日に厚生文教常任委員会がございますので、統合方針を議会へ報告。それから、7月から8月にかけてでございますが、教育懇談会、方針の説明ということで、石相、軽部、笹岡それぞれ3小学校の保護者、これはそれぞれの学校に行って、それから、地域へのご説明ということで、合計4回の教育懇談会説明会の予定をしているところです。またその後、今年の秋10月頃あたりから、今度は実際の統合に向けて、統合準備委員会、石相・軽部・笹岡小学校統合準備委員会として、この統合準備委員会の中で、いろんな議論をしていきながら、より開校に向けて、様々な内容について協議検討、決定していく予定でございます。なお、スケジュールの右隣に複式と書いているところにつきましては、現在複式で、通常の教育課程とは異なった教育課程で学習しておりますので、その子どもたちも令和8年4月に向けて、特に複式で学習している学校につきましては、複式学級から今度は単式の学級になりますので、それに向けた、解消期間ということで、準備を進めていく予定でございます。簡単ですが、以上で学校統合のスケジュールについての説明とさせていただきます。

○友實市長：説明は以上ですけども、こういう方針で。まだ詳細に決めないといけないことはたくさんあるかと思いますが、大きな方針のもとに、それぞれを細かく分析しながら議論を進めていくということになろうかと思いますが。本日は、まずこの方針、それから今考えられている大まかなスケジュールについて、これを柱として、次の議論に入っていくということで、皆様方のご同意をいただければと思っております。冒頭に申しましたように、この議論の中で、やはり、色んな意見をぶつけ合って、総合教育会議の中で方針が定まっていべきものと思っておりますので、ご意見よろしく願います。

○山本委員：統合自体は、少人数の学校だと6年間ずっと同じ人とのお付き合いしかなくて、勉

強自体は少ない人数のほうが手厚く見てもらって、しっかりできると思うんですけど、切磋琢磨しながら、みんなのいろんな意見を聞きながら大きくなるという機会があまりにも少ないと思うので、ある程度人数がいるほうがというのがあるので、統合の方針についてはいいというふうに思います。学力だけで言いますと、全国学力テストがありますけど、今まで学力テストの成績が小規模の学校だからいいとか悪いとかそんなのは聞いたことがないので、おそらく小規模でも、大きい学校でも同じレベルの学びというか、教科の勉強はできていると思います。さっき言った、いろんな行事をするとか、いろんな人と話をするとか、先生もいっぱいいた方がいろんな先生と出会えるとか、そういう意味ではやっぱり今の、石相、軽部、笹岡の人数では小規模すぎて、十分な生きる力を身に付けるというのは足りていないと思うので、統合については賛成なんですけども、統合したときに、やっぱりなくなる地域、小学校が今のところどこになるのか、全く白紙のような状態ではあるとは思いますが、なくなる地域にとっては、地域が寂しくなって衰退するのではないかというような心配はあると思うので、統合を進めながらも、なるべく早くどこにするのか決めたいので、なくなるところの地域の振興ということも考えなければならぬのかなというふうに思います。まあ、教育委員会なので、一番は子どもの教育を考えていけばいいと思うんですけど、教育委員会も地域の中に存在する組織なので、地域全体のことを考えていかなければいけないと思うので、なくなる学校をいかに活用して地域を盛り上げていくかというところをしっかりと、方針じゃないけれど、まあすぐに決まらないと思うので、どういう方向で行きますぐらいのことを決めて、提示して、地域の人と一緒に、地域活性化委員会のようなところで、跡地というか、学校のあとをどう活用すべきか考えていくべきではというふうに思っております。とりあえず、それくらいです。

○友實市長：ありがとうございます。

○平松委員：赤坂地域の3小学校はどの学校も歴史があって地域の方にとって大切な存在です。小学校が統合するのは子どもたちにとっては大切なことだと思うので、私も統合することについては賛成です。でも、子どもたちが、通学に関してとか、学習面、複式であったところが一学年になるとかいろんな環境の変化があることに対してフォローしたりとか、今まで楽しく行っていたのに、環境が変わることによって行けなくなるような子どもさんを作ってはいけないので、そういうフォローを手厚くしてほしいなと思っています。地域の皆さんも、今まで学校がシンボルとして大切な場所だったと思うので、その学校が何かの形で地域の宝になるような拠点として活用していただければありがたいと思います。この統合問題が出てから、赤坂地域もそうですし、吉井にも少人数の学校がありますので、みんな他人事ではなく自分のこととして考えていただいて、将来的に小中一貫校とか義務教育校とか変わっていく、赤磐市の道しるべとなるように赤坂地域がなっていたいただければ、これからの赤磐の将来のためになっていくと思いますので、皆さんで慎重に考えて準備していきたいと思うので、よろしくをお願いします。

○友實市長：ありがとうございます。

○大崎委員：失礼します。大崎です。私が軽部小学校で校長として赴任したとき、前の統合の話がちょうど出ていて、そのときは保護者の年齢の若い人たちはできたら統合して、一

人でも多い人数で勉強をさせてあげたいという中で、やっぱり地域に住まれる年配の方は、山本委員さんが言われたように、地域のほうが元気がなくなるのではないかと、ということで、結局その時の統合は延期といいますか、もう地域の人達からの統合の希望が出ない限りは、市のほうからは声をかけませんということで、大体10年近く経って、こういうようなアンケートが出て、それもその年配の人たちが、こうやって見るとたくさんの方たちが回答してくださって、3校を一校に統合すべきであるというような意見をたくさん書いてくださっているということは、やっぱり大分、十年一昔と、いいますけれども、やっぱり変わってきているなというふうに思います。で、統合に向けてということで、これ見ると本当にかつて軽部小学校で過ごしたのものにとっては、すばらしい環境ができるんじゃないかな、ものすごく楽しみにしています。ただこれからやっぱり小さい面で、地域の活性化でありますとかスクールバスでありますとか、統合した小学校、まだどこに置くかというのが決まっていらないですね。多分その辺で大変なことがあると思うんですけども、地域の人ともしっかり話し合いをされながら、将来的に、義務教育学校そちらの方を目指してしていただければいいかなというふうに思います。よろしく願いいたします。以上です。

○友實市長：はい、よろしく願いいたします。

○遠藤委員：私からは3点お話をさせていただきたいと思います。まず最初のアンケートで、3ページですけれども、全体で9.2%の方が存続してほしいと、統合には反対の意見があるわけですけれども、先ほどからも皆さんおっしゃっていたように、バスの件、また、地域から学校がなくなるという感情的な、地域の方が悲しく寂しく思っている点を、またそこで、地域活性化ということで、跡地を活用していくというような、何かしらの手だてを講じることによって、そこで反対寄りの方の意見を賛成寄りの意見に変えていくということが可能ではないかなと。あともう1点は、高い教育力、まあ、今日この資料をいただく前から考えていたことなんですけれども、やはり教育特別学区といいますか、ここ赤坂地域が統合するにあたって、新しい試みにチャレンジしていただいて、高い教育力を保障していきます、と。例えば子どもたちが、人数が増えることによって、お互い刺激し合い、そして高め合って、様々なことを学んでいく。それから、例えば国際教育ですとか、英語教育とか、または、コンピュータのICT、または経済を勉強するとか何かしらの新たな試みを、ここで発信していくということで、子どもたちが、今まで体験できなかったことも新たにチャレンジしていくようなことも、大変興味深いなと思って考えておりました。高い教育力、また教職員も人数が多くなることによって、互いに研鑽を積むこともできますし、高い教育力、教員の充実ということが図れるかと思えます。そういった形で、子どもたち、また保護者の方、そして地域の方が、統合をきっかけにわくわくするような教育を提供することが一つポイントになるかなというふうに考えておりますが、それを地域の方に、また保護者の方に提示した時に、賛成に考えてくださる方もより増えるのではないかなと。子どもたちのより高い教育力、ということですが。ただ、その反面ですね、こちらの責任は大きいものだというふうに感じております。あと3点目なんですけれども、実はこの資料をいただく前に、統合というところまではもちろん考えていたんですけど、この義務教育学校というのは、意見として上がってはきておりました

が、もう一気にこの資料をいただいて、現実味を帯びてきているのかなという将来的なことを見せていただいて、ちょっと実は、今日びっくりしているんですけども、全国的に義務教育学校というのが、いろいろな例が出てきているんですけど、そこに対しての利点を、やはり地域の方に説得力ある利点を説明していくことも必要ではないかなと思います。どうしても子どもたちはとても狭い社会の中で、生活していますので、やはり大きい人たち、小学生の子にとっては中学生のお兄さんお姉さんと一緒に活動をしていくというのは非常に新たな世界が広がる瞬間でもありますし、そこで大きい子が小さい子の世話をするとか、また今までになかったという効果がそこに見えてくるのではないかなと。あと、カリキュラムを、教育課程を編成されるときに、ひょっとしたら先取り学習ということもポイントとしては上がってくるのかなと思います。そういった点で義務教育学校の利点というものをこちらがしっかりと把握して、地域の方々に説得力ある説明をしていかなければならないかなというふうに思いました。以上です。

○友實市長：教育委員会のほうからもどうでしょうか。質問は出てはいないですが、ご意見は多岐にわたっていただいております。教育委員会のほうで大きな方針として、何か伝えることがあれば。

○坪井教育長：まず教育長の方からお答えします。委員の皆様からそれぞれのお立場でご意見をいただきました。私どものインクルーシブという大きいくくりの中で、今、4人の委員さんが言ってくださった内容も、詳しくではありませんけれども、入れていくつもりではあります。今、遠藤委員さんが言われた、いわゆる質の高い授業とかっていうふうなところですけども、そういったあたりは小中一貫型でいきますので、中学校より専門性の高い教員を小学校のほうへ下ろしてきて、授業するというふうなこと、数学の免許がある者は、小学校に行けば算数は教えることができますので、逆に、小学校で勉強していた子どもたちが中学校に行った時に「あ、あの先生がおってくれる、小学校で教えてくれたあの先生が、中学におった」っていったら、また中1の壁の解消等にもなっていくしますので。なかなか中学校の先生が小学校に乗り入れているのは、現実問題難しいかもしれませんが、まあどこに学校を置くかについては、まだこれから検討しますけれども、赤坂中学校の先生が新しい学校のほうに行って、授業したりするってということも一つの質の高い授業になるのかなというふうに思っています。それから、赤坂の魅力ある新しい学校なんですけど、赤磐の最初のモデルのような形になると思います。赤磐版では初めてのような形のものになると思いますので、これは赤磐の中で、赤坂モデルというものがこれから将来の小学校中学校の試金石になるんじゃないかなと思いますので、地域の方のご意見を聞いたり、逆に説明責任を果たして行って、令和8年に向けて、まずは小中一貫型の新小学校、仮称赤坂小学校を作っていけたらなと思います。本日、総合政策部長さんも来られております。教育総務課長、学校教育課長いわゆる教育のハード面と、ソフト面を担当するものが来ておりますけれども、やはり、今日この席におりませんが、赤坂にある三つの公民館（分館）なんかを所管するのは、社会教育課でございます。こういった社会教育課長も参画させ、赤磐市教育委員会それから総合政策部が一体となって、学校とそれから地域づくりといったところも、あと3年間ありますから。じっくりと考えて、じっく

りと同時にスピード感を持って市民に説明していこうと思っていますので、よろしく
お願いしたいと思います。

○山本委員：大きな方針として、統合ということはいいと思うんですけど、将来的に義務教育学校を作るかどうかということについては、まだまだ勉強が足りないというか、意見交換もしてきたんですけど、一応そういう方向も考えるぐらいの方針の出し方じゃないと、今もう義務教育学校に向かってまっしぐらに行きますとなると、なかなかどうしようかなと思うんじゃないかと思います。それから、もう一つですけど、赤坂地域の魅力ある学校づくりということで大きなことは決めていくんですけど、小規模の学校のほうがいいという人もいたりするんですよ。一番いいのは本当に、各子どもさんと親御さんがいろいろ考えて、自分はこういうところに行きたいという選択ができればいいんですけど。なかなか全部の人が、希望を叶えるわけにはいかないんですけど。ただ条件があれば学区を越えてよその学校に行けたりするのもあるんで。なかには本当に小規模なところで手厚く見てもらいたいと思う人もいたり、小規模ではなく大きいところに行きたいと思う人もいたりすると思うんです。もっと緩やかに学区を自分で選択できるような方向が考えられないかというのも、一緒に検討していったらいいんじゃないかというふうに思います。もう一つ質問なんですけども、結局今のところはどこの学校にするかというところは決まっていらないんですけども、さっき説明してもらったスケジュールの中で、だいたいどのへんでどの学校にするかというのが決まるのか教えていただければありがたいなと思います。

○坪井教育長：まあ、まずもって、10月から、これからあと保護者説明会、地域説明会があります。そういった中で、統合という方針での、保護者からの様々なご提案とかご意見とか、それからご要望とか、お伺いいたします。保護者の要望、子どもたちからの要望、それから地域の方が要望をまず夏休みのあいだぐらいにしっかり受けとめさせていただいて、それをもとに、そのデータをもとに、統合準備委員会ですか、準備委員会を立ち上げていきます。その中で、地域の方のご意見を伺いながら、地域の方と一緒に、じゃあどうするかっていうところは決めていこうと思います。市教委としては、当然それぞれきちとした案を持って進むことが必要だと思いますけれども、一番大切なのは、やっぱり地域のご意見、保護者のご意見じゃないかと思っていますので、大体の統合準備委員会等で、そういったところもしっかりテーブルに乗せて進めていこうかなというふうに考えております。

○山本委員：今年中には決まりそうなスケジュール感なんですか。

○坪井教育長：これはスピード感が必要だ、今年中にある程度決めておかないと、予算とかいろんなことが入って参ります。そこは、本当に地域の皆さんと保護者の皆さんと一緒に考えていく必要があると思います。

○大崎委員：希望です。たぶん県内にも赤坂地域と似たような状況で統合して義務教育学校になったというところがあるかと思うんですけど、今年か来年か早いうちに、我々4人、都合がつけば、いろいろ話を聞いたり様子を見に行かせていただいたら。また次、義務教育学校について進めるときに、より現実に近いようなご意見が言えるんじゃないかなと思いますので、ぜひ、その計画を入れていただいたらというふうに思います。

○坪井教育長：事務局の方で、検討させてください。貴重なご意見ありがとうございます。

○山本委員：もう一つ質問です。資料を見させてもらおうと、統合した後、小中一貫型にしようということで、施設分離と書いてあるんですけど、義務教育学校になる場合には、施設が別々でも義務教育学校ができるのか、施設が一緒じゃないとできないのか。

○坪井教育長：はい。よく勉強している担当課長がおりますので、担当課長から説明させましょう。お願いします。

○森本学校教育課長：はい。学校教育課、森本です。施設が併設型でも一貫教育と言えるかということですけども、小中一貫とまず義務教育学校の違いというのが、小中一貫というのは、それぞれ小学校と中学校一応単独であって、管理職もそれぞれにいる。それが教育課程という部分で小中繋がりを意識して組んで行く。そういうのが、小中一貫だけど、併設型ということになります。義務教育学校は、これが同じ9年間の教育課程を見ていくんですけど、もう中学校と小学校も一つの学校ということになりますので、基本、管理職が校長1人、あと、学校規模によっては副校長がついたりするんですけども、校長と教頭が1人ずつで、9年間で見ていくというのが義務教育学校です。で、併設型でいうことであっても、そこは義務教育学校というふうになると思います。ただ、併設で義務教育学校だと、いろんなデメリットがあるんじゃないかなとこちらとしては想像しているんですけども。あるかないかいうと、一応そういうのもあります。

○山本委員：校舎が別々でも義務教育学校というのは可能ということなんですね。ありがとうございます。もう一つよろしいですか。いよいよ義務教育学校になって、まあ、これが今までの小中一貫の別々の学校よりも素晴らしいとかどうかはまた検討してみないといけないと思うんですけど、その義務教育学校ができると、そこに行きたいという希望を他の地区の方が持つかもしれない、それを学区を越えて、通学ができるというようなことを考えてみるべきじゃないかと思いますが。

○坪井教育長：基本的に学区が定められております。法的に定められておりますので、まずは学区というのを基本に考えていく必要があると思います。それを自由になると学区でなくなってしまうので、その学区を基準に、教育委員会のほうで、様々な体制整備とか、それから、教職員の数とか、いろんなところが決まって参りますので、なかなか自由というふうなのは、非常に厳しいところもあると思います。ただ、特段の理由によりっていうところが、今学区の一部にありますけれども、まずは学区というのを基本に考えていく必要があるんじゃないかなと思います。委員さんのご意見としてはお聞きしたというところで承っておきます。まずは学区ってということについては、ご承知願えればと思いますので、よろしくをお願いします。

○山本委員：法律の範囲内ということでもいいのかなと思います。

○友實市長：どうでしょうか。今日は、こういう形で統合の方針を、市の見込みとして、方針として示す第一歩でございます。いろいろ、これはどうなるんだ、あれはどうなるんだというご意見はあろうかと思いますが、大きな方針をまず決めて、ご意見を聞きながら、例えばバスはどうするのかという意見も当然起こります。教育のカリキュラムがどうなるんだとか、それも起こります。そういう中で、また何も決まっていないうのも、説得力のない話になります。ですから、教育委員会の方針として、私もこれに同意して、今日ここへ座っているわけなんですけれども、大きな方針

としては、5ページの資料の下の段にあるように、やっぱり鍵はこの先のインクルーシブ教育、ちょっと最近、全国的にこの言葉が走っています。でも、これを深く意味を理解して、深く地域にこれがインクルーシブだというものを実現させるためには、言葉だけじゃなく、その奥深いところをよく我々もしっかり理解し、また、本当の意味のインクルーシブが実現できるようにするためには、どのような体制、あるいはカリキュラム、それから、中には例えば発達障害の問題もあります。そういったものをやさしく包み込める体制はどうあるべきなのか。これは本当に深い研究、検討が必要だと私は思います。ですので、こういったことを、確実にこうだよってという教科書はないので、赤磐市なりの理解のもとに、深い検討のもとに一步を踏み出す、これを今日決めたわけなんです。ですから、学校はどの学校がいいのかとか、場所はどのするんだとか、そういったことも重要な案件ではありますけども、どんな学校になるのかと。いうことで、小中一貫あるいは義務教育学校という言葉をここで使わせていただきますけども。それは、赤磐市が目指す、何度も言いますが、インクルーシブ教育の結果がこうだよと、いうふうに私は思っていていきたいと、そう思っています。ですから、義務教育学校あの星目指せと、いうわけではありません。視野には入ってますけども、必ず実現するぞという信念は、今のインクルーシブ教育、これを深いところで実現していくということを柱に持っていきたいなど。これが私の意志ですし、教育委員会もその方針に応えてくれています。教育委員会が、インクルーシブを我々の手で実現させるんだという思いを市長室でこんこんと語ってくれました。ここを私は大いに評価をし、この思いを持っておれば、きっと、苦しいだろうけども成功するんじゃないか、うまくいくんじゃないかというふうに熱いものを感じました。そういうことで、今日の大きな方針が、アバウトなものだけじゃないかということではなく、熱い思いを持って、第一歩を踏んだということ、委員の皆さんにご理解いただきたいなど、そう思います。

○山本委員：市長、先ほどからインクルーシブ教育ということで、国籍や人種、ジェンダー、障がいのあるなしにかかわらずすべての子どもたちにとって一緒に学べる教育を目指すということで書いてありますが、これ本当に重要なことだと思いますので、ぜひとも統合小学校も当然ですけど、市内全体の学校でインクルーシブ教育進めていかなければ。

○友實市長：そうですね。それはそのとおりだと思います。また、さきほど言ったように、インクルーシブ教育って語るのは簡単です。でも、現地で子どもたちを対象にこれを実現するのは、たやすいものではない。ですから、なかなか学区外の人に伝えるのは難しいんですけども、赤坂の小学校でこういうことが起こってるよ、それは親にとっても保護者にとっても、人の安心に繋がるよっていう存在になっていけば、それがインクルーシブだというふうに言えるようなそういう学校を目指すことにできたらな、そう思います。それがよその学区にも波及していく。同時並行でも構いません。そういうふうに思います。

○山本委員：最初にも話してもらったと思うんですけども、地域から小学校がなくなるので、今まで宝だったものがなくなってしまうので、後の活用をしっかりと考えていかないといけないと思うんですけど、教育委員会のテーマじゃなくなると思うので、市長部局さん

のほうで考えていただかなくてはならないと思うんですけど、なんかその今年中にどっかに決まったら、そこからもう、すぐにスタートして、来年の4月ごろから、どうするかというようなことを話し合うような協議の場を地域で作ってもらえたらありがたいと思いますので、よろしく願いいたします

○友實市長：はい、分かりました。いかがでしょうか。思いはいろいろあって、ここで言葉にすっとならないような思いもあると思う。これで第一歩を踏み出すということについては、今日ご出席の皆さんのご賛同をいただいたと理解してよろしいでしょうか。はい。また、総合教育会議、これも頻度を上げて、きめ細かく皆さんに説明し、見えなかった問題点なんかも、皆さんの気づきがいただけたら、前もっての対応っていうのも可能かと思しますので、よろしく願いします。実は、私の経験でいいますと、もう余談事として聞いてください。旧山陽町で、小学校3つありました。高陽小学校と高月小学校と西山小学校で、実はその高陽小学校に私は入ったんですけども、この高陽小学校最後の卒業生だったんです。その時に、高陽小学校がなくなって、すぐその山陽小学校になり、そのうちに、山陽団地が造成されて、山陽西小学校ができる、こういう歴史の中で、自分のその小学校が統合された経験があります。正直に言います、子ども心に納得いきませんでした。校舎が新しくなるというのはいいけど、私はその学校に行くことはないんです。統合しないといけない理由っていうのが、子ども心に理解できなかった。まあ、生徒が少ないというのはありましたが、友達がたくさんできるよって言われても、そんなに実感としてはなかった。そういう経験で、友達がどうこうとかいう話は大事ですけども、もっともっと大切なものがあるんじゃないかというふうに思います。それは何かっていったら、今から振り返ってみると、やはり学校の中での先生同士あるいは上の学年、下の学年のコミュニティ、あるいは地域の方との触れ合い、こういったものが、当時は希薄だったと。また、学校の中でも、昔の学校ですから、今みたいな関係でなく、言ってみれば、保護者も学校も比較的放任といえますか、子ども同士のいざこざなんかに口出しすることはありませんでした。だけど今はもっともっと、子どもたちへのケアが求められてますよね。そういったものを、実現していくためにも大きな方針転換がいるんだろうなと、おぼろげながら感じています。ですから、この赤坂の統合小学校を機に、そういった、私の幼少のころの経験が、ここに再現しないように、ということを教育長に強く言っています。教育長も相前後して、統合の山陽小学校の初期に通っています。ですから、統合する、あるいはしたあと、子どもの心境の変化っていうのはある程度分かるというふうに思っていますので、その気持ちを大切にこれから進めていきたいと思っています。皆さんもいろいろと自分の経験を語ってください。それが、問題解決の一助になるかもしれないですね。いらんこと言いました。よろしく願いします。今日の話題以外のこともでも構いません。もし何か、この総合教育会議で、共通課題として、共有したいことや問題点、ご意見があったら、ちょっと自由な形でお話しいただければと思います。特に、よろしいでしょうか。よろしいですか。はい。それでは、すいません。今日は大変重い話題で皆さん熱心にお話いただきました。ありがとうございます。事務局よろしいですかね。

○事務局：事務局としては特にございません。

○友實市長：はい、わかりました。それでは、これもちまして、令和5年度第1回赤磐市総合教育会議を、閉会させていただきます。皆さんお疲れさまでした。